

自己評価

令和 7年度

0歳から6歳までの子どもの健やかな育ちを見通して、常に保育を振り返りながら子どもの理解を深め保育の改善や質の向上を目的として取り組むものです。

所沢市立安松保育園

A...できている B...ほぼできている C...努力が必要

		評価	課題や改善すべき点
1. 保育の理念・保育観			
<input type="radio"/>	すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重している。	A	
<input type="radio"/>	個人情報の保護に配慮し、子どもやその家族についての秘密を正当な理由なく漏らすことがないようにしている。	A	
<input type="radio"/>	様々な特徴を持つ子どもも持たない子ども、一人ひとりのありのままの姿を受け止め、地域のすべての子どもが健やかに成長することを願って保育をしている。	A	
<input type="radio"/>	子どもの家庭状況は多様だという考えの上で、今、その子に何が必要かを見極め、それぞれにとって適切な援助をおこなっている。	B	子どもを真ん中に日々の保護者とのコミュニケーションを図りながら、適切な援助を考えていきたいと思えます。
<input type="radio"/>	一人ひとりの子どもに目が行き届いていたか振り返り、保育の課題を見つけている。	B	
2. 基礎的事項			
<input type="radio"/>	子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるように、いつも心を開いて、信頼関係をつくる努力をしている。	A	
<input type="radio"/>	子ども一人ひとりの背景や保護者の状況を理解し、受けとめて、安心して甘えられるように、その子の気持ちに寄り添い、支えている。	A	今後も子ども達が安心して自分を出せるような環境を作っていきたいと思えます。
<input type="radio"/>	必要に応じて、心も体もゆったりとくつろげるための空間と時間をつくり出す努力をしている。	B	
<input type="radio"/>	日常の生活でのしぐさをよく観察して、行動や身体の異常などの早期発見に努めている。	B	
3. 保健活動・安全管理			
<input type="radio"/>	身長・体重等の測定や医師の診断から、発育・発達の状態を把握して、それを保護者や他の職員に伝えとともに、日常の保育に生かしている。	B	
<input type="radio"/>	睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態を観察するなど、SIDS(乳幼児突然死症候群)等への予防に努めている。	A	
<input type="radio"/>	アトピー性皮膚炎・食物アレルギー等の子どもに対して、医師の指導のものに適切な対応をしている。	A	
<input type="radio"/>	地震等の災害や火災に備え、避難訓練等に参加し、非常災害時に何をしなければならないか理解している。	A	
<input type="radio"/>	不審者が侵入した場合に備えて、子どもの安全を確保するための対応策を日頃から心がけ、職員間で話合っている。	B	不審者訓練を行い、不安な所の改善を行ったり、職員間で対応策話し合いました。
4. 保護者・地域社会・関係機関との連携			
<input type="radio"/>	園での様子を伝え家庭での様子を聞くなかで、保護者と共に子どもの育ちを同じ目線で考えている。	B	
<input type="radio"/>	保護者同士が、お互いをよく知り合う機会を設けている。	B	保育士体験や行事等で保護者の方の参加の機会を増やし、他の保護者同士のコミュニケーションがとれるよう配慮しています。
<input type="radio"/>	公園などの公共の場を使用する時は、地域の方とあいさつを交わしたり、ゴミを残して帰らないよう気を配っている。	A	
5. 保育園の職務・役割分担			
<input type="radio"/>	職員会議で必要と思う質問や意見交換をしている。	B	
<input type="radio"/>	栄養士など保育士以外の職種の人たちが保育にかかわるとき、その人たちへ気配りや協力関係に配慮するとともに、保育士としての役割が何であるか理解している。	B	
<input type="radio"/>	自分のクラスの教材や備品を、責任もって毎日点検・管理している。	B	
6. 保育士としての資質向上(研修・研究活動)			
<input type="radio"/>	保育士が自分の保育を振り返り、問題点や課題を見つけている。	B	
<input type="radio"/>	どのような子どもについても、一人ひとりの課題をみつけ、職員間で意見交換をおこなっている。	B	職員会議、クラス会議、乳児会議、幼児会議などでの話し合いを大切にしています。
<input type="radio"/>	保育の悩みや疑問を解決するために、研修や会議で話し合いを持っている。	B	
<input type="radio"/>	他のクラスの保育について、疑問や感想・意見をお互いの向上のために、言葉に配慮しながら素直に伝えている。	B	
7. 行事			
<input type="radio"/>	園が従来から続けてきた「行事」について、その意味について十分に考えてから、保育の中に組み込んでいる。	B	
<input type="radio"/>	「行事」が子どもの生活や遊びから発展していくように、日常の保育の積み重ねの結果となるよう心がけている。	B	子どもの姿から行事の時期や、やり方を考え、工夫してきました。
8. 担当業務			
1) 0歳児保育			
<input type="radio"/>	一人ひとりの子どもの出生時の状況、その後の発育・発達など、生育歴を細かに把握するとともに、保護者の状況などの背景も理解している。		
<input type="radio"/>	哺乳瓶の消毒、調乳、沐浴の仕方など基本的な事柄や、子ども一人ひとりの健康状態などを、随時職員相互で確認している。		
<input type="radio"/>	授乳について、その子が欲しがる時にやさしく抱いて微笑みかけ、ゆったりと飲ませている。		
<input type="radio"/>	離乳食は、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの育ち具合やその日の体調に合うよう工夫をおこなっている。		
<input type="radio"/>	おむつ交換は「きもちいいね」などとやさしく声をかけたり、マッサージしたりして、排便の回数、便性を把握して臀部の清拭している。		
<input type="radio"/>	赤ちゃんの目の動き、泣き声、しぐさ、片言をメッセージとして受けとめ、ほほえみ、要求に応じる言葉をやさしく返している。		
<input type="radio"/>	寝返りができない乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせるようにするとともに、睡眠中の姿勢、毛布・バスタオル、呼吸等の確認をしている。		

2) 3歳未満児保育(1・2歳児保育)

○ 大勢の子どもを保育するときでも、大人を独占したがるその子の気持ちも十分に受けとめ、子どもの背景に配慮しながら、個別対応の努力や工夫をおこなっている。	A	
○ 探索活動が十分行えるよう、安全にはよく気を配りつつ、環境を整えたうえで、子どもが要求する行動を容認している。	B	
○ 着替えや食事などの時には、その子に応じた手助けやことばかけをしながら、自分からしようとする気持ちを大切にしている。	A	
○ 子どもの好奇心や興味をもつような教材や素材、場を用意する配慮をしている。	A	こどもの成長に合わせて、手作りおもちゃを取り入れました。
○ 散歩の時、保育者も一緒に楽しみながら、植物や虫などを見つけたりして、子どもと興味・関心をもつことを大切にしている。	A	
○ 子どもと会話をするとき、その子の目線に合わせて話をゆっくり聞いて、子どもの話したい気持ちや伝わった喜びを共感している。	A	

3) 3歳以上児保育

ア. 健康

○ 「食育」の考え方を大切にし、食事を「楽しく・おいしく」味わえるように、テーブルの配置なども工夫している。	B	
○ 天候や活動の内容に応じて、衣服の着脱、調節を子ども自らが考えられるように適宜言葉をかけている。	B	
○ トイレに行くことをせかしたり、強制したりせず、一人ひとりの排泄の欲求に合わせているようにしている。	A	
○ 子どもがいろいろな楽しさを味わうために、散歩など戸外に出かける機会を積極的に取り入れている。	A	同年齢だけでなく、異年齢の散歩も取り入れて楽しんでいます。

イ. 人間関係

○ 先生や友達が好きという気持ちを味わうために、子どもが充実できる活動や場を日頃から用意している。	B	
○ 子どもが嬉しい時や悲しい時、また困ったり戸惑ったりした時に、それを伝えたい存在となっている。	B	
○ 遊びの中で子どもたちが試行錯誤しながらつくっていくルールを、大切に見守るように心がけている。	B	
○ 子どもたちのけんかやぶつかり合いを、友だちを知る機会や、社会性が育つ過程として受けとめ、その育ちを見守っている。	B	
○ 一人ひとりの興味や発達に応じた取り組みをして、子どもたちが一緒に関わりあう喜びを味わう場や機会を用意している。	B	

ウ. 環境

○ 庭や散歩で拾ってきた木の葉・木の実など色々な物を比べたり調べたりして、自然の不思議さや面白さを子どもたちと共感するとともに、物の性質や数・量などに対する興味を育てている。	B	
○ 子どもが自由に取り出して遊べるよう、遊具・用具などの構成を整え、その量や補充について工夫している。	B	

エ. 言葉

○ 紙芝居や絵本の読み聞かせで、子どもが感動したり想像力を膨らませるように、自身もその内容を楽しんでいる。	A	
○ 子どもの目をやさしく見つめながら気持ちを合わせ、その子の言葉だけではなく、目の動き、顔の表情、体全体のしぐさにも注意を払っている。	B	
○ 子どもに言い聞かせるときには、問い詰めたり、押し付けたりせず、子ども自ら考えるきっかけになるようなわかりやすい言葉づかいをしている。	B	

オ. 表現

○ 見たこと、感じたものに対して、言葉、絵、造形、からだ、音などその子が最も好きな、得意とする方法で表現することを大事にしている。	B	
---	---	--

4) 特別な配慮や支援を必要とする子ども(混合児)の保育

○ 保育園は、様々な特徴をもつ子どももそうでない子ども「共生」「共有」の観点から、当たり前のこととして保育するという考え方に共感している。	A	
○ 就学に向けて相談する混合児の保護者に対して、保護者が自分で方向を決めていけるように相談に応じたり、情報提供をしている。	B	
○ 様々な特徴を持つ子の保育をより豊かなものにするために、子どもたちにふさわしい環境を整えるなどの努力をしている。	B	専門機関と連携し、アドバイスをもらい、支援の仕方を日々整える努力をしています。

5) 延長保育

○ 次々にお迎えがくるなかで、子どもの不安なつぶやきに対して、その子の気持ちを受け止めて、安定した気持ちで待つことができるよう適切な対応をしている。	A	朝・夕ともに子どもが安心して過ごせるよう、雰囲気作り、環境作りを心掛けています。
○ 一時保育や延長保育の子ども保護者に、緊急の連絡が取れるような手だてを確認をしている。	B	

6) 一時保育

○ 一時保育の申し入れには、保護者の事情等や子どもの背景を十分に考慮しつつ、受け入れをおこなっている。		
○ 慣れない所に一時的に預けられる子どもの不安な気持ちを考慮して、予定している日案を変更するなど柔軟な姿勢をもっている。		

7) 地域の子育て支援

○ 保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割を持つことを知り、職員全体で受け止めている。	B	園庭開放に来たお母さんと子育ての話しをしたり、民間小規模園の子どもたちと遊ぶ機会を設け、地域に開かれた保育園作りに努めてきました。
○ 子育て相談を実施する際に連携すべき機関等(保健センター・児童相談所・福祉事務所・医療機関等)の機能について知っている。	B	

0歳児保育及び一時保育を実施していない園もあります